

東京藝術大学美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

≡ <http://arch.geidai.ac.jp/>

建築とはなにか？ Introduction to Architecture



空間

「中村キース・ヘリング美術館」(設計:北川原温)
Photo:大野繁

建築は、その内部に入ることができ、使うことができる有用なものです。街の中に建ち、多くの人が目にするようになります。



構造

「富弘美術館」の施工現場
(設計:ヨコモソマコト、構造:金田充弘/Arup)

建築は、地震や風雪に耐え、人びとを守るものでなくてはならず、そのために「構造」を考える必要があります。



歴史

コロコロトンド(イタリア)

建築の歴史は人類とともにあり、とても長いものです。古今東西、様々な建築の実践、展開、蓄積があります。



環境

宮城県雄勝半島の「船越の浜」の野帳より
(雄勝スタジアム)

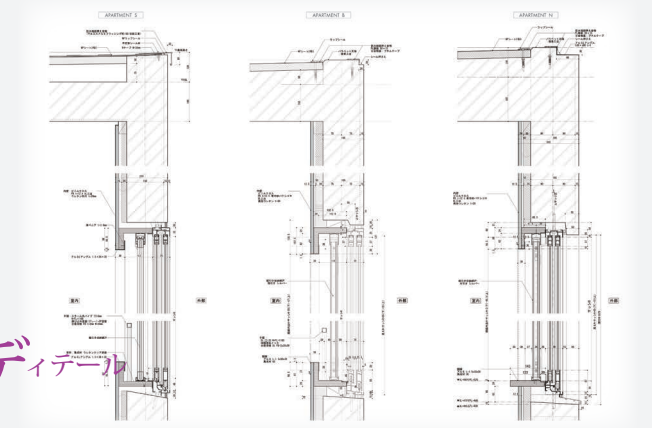
都市的な大きなプロジェクトやまちづくりに関わることもあります。地球環境やその地域の気候風土のことも考察します。



描くこと

「2004」のためのスケッチ(中山英之)

建築は、様々な人とコミュニケーションしながらつくっていきます。そのために、スケッチや図面を描き、模型をつくります。



ディテール

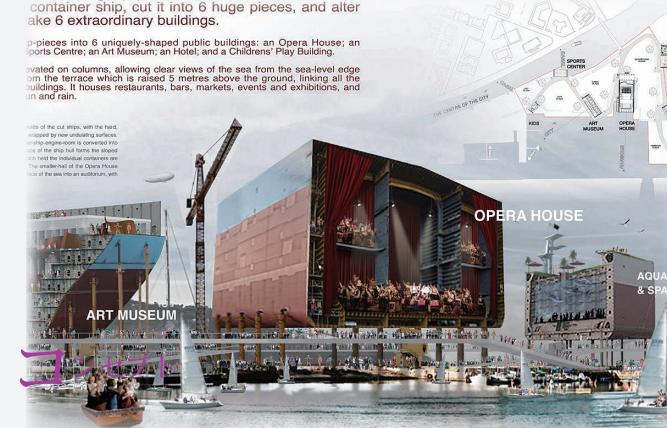
「APARTMENT S」「APARTMENT B」「APARTMENT N」詳細図
(設計:RFA)

建築は、多くの材料から成り立っています。モノとモノをどのように組み合わせるのか、様々な工夫や知恵があります。



社会

建築は社会と深く関わります。それを現在使う人びとだけでなく、未来の社会へつながっていくものです。



コンクリート

「Young Architects Competitions "Smart Harbor"」
(ム・ヘネガン研究室)

建築は、物理的な建築物をつくるだけでなく、より大きな「構想」を表現することでもあります。

藝大建築科で学ぶこと Architectural Education



家具(1年次)

学部1年生 椅子展「Priti Old Mastia」

木で実際に椅子をつくります。設計から制作、展覧会までを自ら行うことで、手や身体を通してデザインを学びます。



実測(2年次)

寺院などの古建築を対象とし、その構成を観察し、正確に記録し、表現する体験学習です。



地区設計(3年次)

学部3年生 地区設計「大宮プロジェクト」

2年次までの住宅 集合住宅から、より大きな公共的な建築の設計課題です。都市や街についても学びます。



プレディプロマ(4年次)

分析やリサーチからプログラムの立案、表現方法などを学んだ上で、新しいプロジェクトの提案を行います。



基礎(1年次)

学部1年生 基礎:建築の空間・仕組みを深める
「吉村山荘軸組模型」市原昇

名作と呼ばれる住宅建築を実際に訪れ、模型をつくり、その図面を描くことで、構成や考え方の基礎を学びます。



架構(2年次)

学部2年生 架構:スケールシフトする架構・増減する骨組み

建築の「構造」を学びます。力学の基礎を学習し、実際に構造モデルをつくってみることで、構造のデザインを体得します。



古美術研究旅行(3年次)

東大寺南大門(奈良)

京都と奈良を中心に約2週間にわたり、伝統的な建築や空間を観察し、現代における創造との連続性や違いを考えます。



卒業制作(4年次)

「工業の童話『パブリックとファクタロー』」高砂充希子

テーマや条件、プログラムの設定等すべてを自ら行い、各人の集大成となる作品を制作していきます。

藤村龍至
Ryuji FUJIMURA

1976 年東京都生まれ／2008 年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程単位取得退学／2002-03 年ベルラーヘ・インスティテュート（オランダ）留学／2005 年藤村龍至建築設計事務所設立（2016 年 RFA に改組）／2016 年- 東京藝術大学美術学部建築科准教授



「鶴ヶ島太陽光発電所環境教育施設」
Photo: 太田拓実



「家の家」
Photo: 太田拓実

ヨコミゾマコト
Makoto YOKOMIZO

1962年神奈川県生まれ／1984年東京藝術大学美術学部建築科卒業／1986年同大学大学院修了／1988-2001 年伊東豊雄建築設計事務所／2001 年aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所設立／2009年東京藝術大学美術学部建築科准教授／2015 年- 同教授



「竜弘美術館」
Photo: 大野繁

中山英之
Hideyuki NAKAYAMA

1972年福岡県生まれ／1998年東京藝術大学建築科卒業／2000年同大学大学院修了／2000-07年伊東豊雄建築設計事務所／2007年中山英之建築設計事務所設立／2014年- 東京藝術大学美術学部建築科准教授



「2004」

金田充弘
Mitsuhiro KANADA

1970年東京都生まれ／1994年カリフォルニア大学バークレー校環境デザイン学部建築学科卒業／1996 年同校工学部土木環境工学科修了／1996 年-Arup東京・ロンドン事務所／2007年- 東京藝術大学美術学部建築科准教授



「島キツチン」
(設計: 岡部良、構造: 金田充弘研究室)



「クズのトンネル」
(アイレグジョン: 田瀬理夫、構造: 金田充弘研究室)

「2004」

トム・ヘネガン
Tom HENEGHAN

1951年ロンドン生まれ／1975年AA School 卒業／1979-82年アリソン&ピーター・スミッソン建築事務所／1976-90年AA School ユニットマスター／1990 年アーキテクチャー・ファクトリー設立／2002-08年シドニー大学建築・デザイン・都市計画学部長／2009年- 東京藝術大学美術学部建築科教授



「熊本県草地畜産研究所」

光井渉
Wataru MITSUI

1963年広島県生まれ／1987年東京大学工学部建築学科卒業／1989年同大学大学院修士課程修了／1991 年同博士課程退学／1991-96年文化庁建造物課文部技官／1996-2000年神戸芸術工科大学常勤講師・助教授／2000年- 東京藝術大学美術学部建築科准教授／2014 年- 同教授



「浅草寺伝法院庭園」(名勝伝法院庭園保存管理計画策定・2012-14 年)

北川原温
Atsushi KITAGAWARA

1951年長野県生まれ／1974年東京藝術大学美術学部建築科卒業／1977年同大学大学院修了／1980 年北川原温建築都市研究所設立／2001 年東京藝術大学美術学部助教授／2005年- 同教授



「中村キース・ヘリング美術館」
Photo: 大野繁

野口昌夫
Masao NOGUCHI

1954年東京都生まれ／1977年東京工業大学工学部建築学科卒業／1980年同大学大学院理工学研究科修士課程建築学専攻修了／1986 年同博士課程建築学専攻単位修得退学／1995 年- 東京藝術大学美術学部建築科助教授／2008年- 同教授



オストカーニ（イタリア）



レッヂェ（イタリア）

概要

東京藝術大学美術学部建築科は、「建築家の養成」を目的とする唯一の国立の教育機関です。1902年の創設以来、日本を代表する数多くの建築家を輩出してきました。日本の他大学の建築学科と異なり、工学系ではなく美術系に属し、教育の軸を「建築設計」に置いている点に大きな特徴があります。幅広く科学的知識や思考力を養うとともに、一人ひとりのもつ感受性の鋭さや、表現の独自性を追求し、建築設計実技をとおして建築家として必要な総合的能力を養います。

設備・環境

学究と制作のために、日本屈指の充実した設備が整えられています。一人ひとりに十分な広さを持った製図室(スタジオ)、講評や展示を行うスペース(FM・MS・TG)、最新の3Dプリンタやレーザーカッターなどを備えたマテリアル・アウトプット・スタジオ(MOS)、構造実験室、建築科専用の図書室などがあります。また、美術学部の木工・金工などの工房、芸術情報センター(AMC)、美術学部附属写真センターなどの施設も利用できます。隣接する上野公園は豊かな緑を有し、世界有数の美術館・博物館が集中するエリアです。

国際交流

国際交流協定校(2017年6月時点で13校)を中心に、短期留学など活発な国際交流を行っています。中央美術学院(中国)/中国美術学院/リヒテンシュタイン国立大学/シュトゥットガルト美術大学/ミマール・シナン美術大学(トルコ)/韓国芸術綜合学校/ウィーン工科大学/ウィーン応用芸術大学/ウィーン美術アカデミー/ミラノ工科大学/トリノ工科大学/カタルーニャ工科大学/アアルト大学(フィンランド)

Web

<http://arch.geidai.ac.jp/>

建築科の公式ウェブサイト。授業の様子や課題について最新の情報を更新しています。また、入学試験の評価ポイントや参考作品についても掲載しています。

<http://www.geidai.ac.jp/>

大学の公式ウェブサイト。入試の詳細(過去問題など)、学費などに関してはこちらをご覧ください。

http://www.geidai.ac.jp/department/fine_arts/architecture

本科の来歴、進路、設備、国際交流、教員についてなど、より詳しい情報があります。

進路・資格

学部卒業生の過半は大学院に進学します。近年の卒業生・修了生のおもな就職先は以下のとおりです。青木淳建築計画事務所/アトリエ・ワン/伊東豊雄建築設計事務所/隈研吾建築都市設計事務所/谷口研究設計研究所/SANAA/日建設計/日本設計/三菱地所設計/アラップ/大林組/清水建設/竹中工務店/大成建設/NTTファシリティーズ/東日本旅客鉄道/電通/その他、メーカー、官公庁・自治体・大学など。自ら設計事務所を設立して独立する者も多くいます。卒業時に二級建築士試験受験資格、卒業後2年以上の実務経験を経て一級建築士試験受験資格が得られます。



教員(2017年度)

建築設計 | 藤村龍至 中山英之 トム・ヘネガン

環境設計 | 北川原温 ヨコミゾマコト

構造計画 | 金田充弘

建築理論 | 光井渉 野口昌夫

専任教員9名に対し、1学年の定員15名という少人数の恵まれた環境で、個性と創造力を伸ばす自由かつ緊密な教育が行なわれています。また、学生にとって身近な相談相手でもある教育研究助手や、各専門分野の第一人者である非常勤講師も、数多く在籍しています。

Q & A

Q1 藝大のキャンパスはいくつありますか、建築科の実習や講義はどこで行われるのでしょうか。

A ほとんどの実習や講義は上野校地で行なっており、製図室(スタジオ)も上野校地内にあります。

Q2 美術系の大学と工学系の大学で建築を学ぶことの違いは何ですか。

A 前ページの「概要」のように、本科は建築家の養成を目的とした唯一の国立の教育機関です。工学系の大学では、構造／設備／材料／歴史などの分野のひとつとして「設計」がありますが、本科では、その「設計」をカリキュラムの中心に据え、1年次から建築設計の実践的な課題に取り組むことが大きな特徴です。

Q3 入学試験の科目について教えてください。

A 大学入試センター試験での5教科6科目、および本学での実技(空間構成、総合表現)という構成です。本学での実技試験については、建築科の公式ウェブサイトで過去問題や参考作品、評価のポイントを公開していますので、ご覧ください。

Q4 入学料、授業料の免除制度について教えてください。

A 経済的な理由などで、納付が著しく困難であると認められる者に対し、選考の上、全額または半額を免除する制度があります。同様の理由で、徴収猶予の制度もあります。詳細は本学のウェブサイト内の「入試案内」→「学費と奨学金・免除制度」の項をご覧ください。

Q5 建築科の実習について教えてください。

A 実習は本科で最も重視するカリキュラムで、4年間を通じて水曜日と木曜日の全日を割り当てています。実践的な課題への取り組みを通じて、建築設計の素養を習得することを目的としています。課題内容には、住宅や公共施設などの設計以外にも、椅子の制作(1

年次)や古建築の実測(2年次)も含まれています。また、名建築の空間を実体験する「古美術研究旅行」(3年次)が行われることも、大きな特徴です。

Q6 建築科の講義(座学)はどのようなものなのでしょうか。

A 建築を学ぶには、実習だけでは不十分です。講義では、素材、構造、設備、環境についての幅広い科学的知識や、建築史、思想、理論なども学びます。総合的な思考力を養うための充実したカリキュラムを組み立てています。詳しくは、本学のウェブサイトで公開している「シラバス」をご覧ください。

Q7 男女比はどれくらいですか。また、現役で合格する学生数はどれくらいですか。

A 過去3年間のデータです。2017年度入学の学部生の構成は、男性8名、女性7名、そのうち現役の学生は5名／2016年度は男性7名、女性8名、現役の学生は4名／2015年度は男性6名、女性9名、現役の学生は9名です。

Q8 卒業生はどのような活躍をしていますか。

A 「建築家」と呼ばれる職業に就く場合が多数を占めます。国内外の建築設計事務所や建設会社の設計部門のほかに、独立した設計事務所を構える卒業生も多いのが、本科の特徴です。そのほかに大学教員や研究者、公務員も一定数います。また、建築の設計に限らず、プロダクトやウェブサイトなどのデザイナーやプランナーも輩出しています。建築は、家具から都市までスケールを横断して考える必要があり、将来の可能性は様々です。

Q9 卒業後に得られる資格はありますか。

A 学部卒業時に二級建築士試験の受験資格が得られます。また、卒業後2年以上の実務経験を経ることで、一級建築士試験の受験資格を得ることができます。工学系大学の建築学科と違いはありません。

